

めさきじょう 目崎城跡発掘調査速報

平成29年10月から12月にかけて、下原作業道開設工事に伴う発掘調査を実施しました。対象地は下原の中世の山城跡・目崎城跡の南西端一帯で、山中には現在でも遺構が確認できます。今回はこうした遺構の残る4か所を1〜4区の調査区に分け、調査しました。

1区は城の主郭（中心部）から南にあたり、主郭から最も遠い場所に位置しますが、ここからは敵の侵入を防ぐため地面を掘り下げた「堀切」という溝状の遺構が3本にわたって連続で掘られていることが確認されました。この堀切



作業風景



1区 堀切跡



2区 郭跡



3区 堀切跡



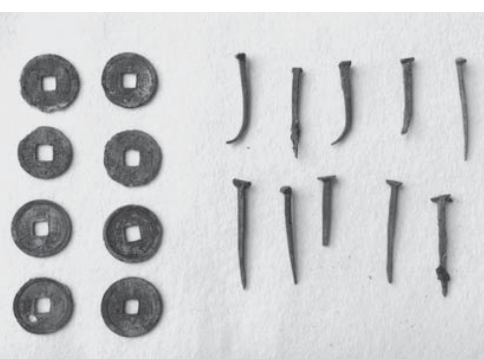
4区 堀の跡



青磁の破片(左)と土師器の皿(右)

は今回の調査で初めて発見されたもので、この発見により目崎城が従来知られていた範囲より約80m南西に広がることがわかりました。2区は尾根の頂上にあたりますが、頂上を整地して多くの兵が駐屯できるよう、「郭」として整備していたようです。また、郭の端は敵が登りにくくするため、断崖状の急斜面を作っていることもわかりました。

4区は、城の主郭の南西部で、元々平坦な面が残っていたため、郭の跡を想定していたのですが、調査の結果、この平坦面は江戸時代に形成されたと思われる、火葬墓が発見されました。その下から大きな堀の跡が確認されたことから、戦国時代頃は城の輪郭に沿って堀が巡っていたことがわかりました。さらにその下の流れ込みの土砂からは、弥生土器が大量に出土し、城の頂上付近に弥生集落が存在したことが想定できます。



火葬墓出土 銅銭・釘

業を行っていきませんが、その過程でまた新たな発見があればお知らせしたいと思います。

お問い合わせ先

鏡野町教育委員会

生涯学習課（担当：日下）

電話（0868）54-7733